



《こども版》 としょかんだより No. 327

2011年

# わくわく本だな

## 11月号

富山市立図書館

### 今月のおすすめ



★ = 1・2年

★★ = 3・4年

★★★ = 5・6年

—あたらしうはいった本の中から、おすすめの本をしようかいます—

#### 「しげちゃん」 (えほん)

室井 滋／作 金の星社



しげちゃんは、『しげる』という男の子みたいな名前のせいで、いつもいやな目にあいます。男の子にまちがわれたり、かえうたを作られたり。名前をかえたいと思っているしげちゃんに、お母さんは、大切なことををおしえてくれました。

#### 「赤ちゃんおばけベロンカ」 ★

クリスティーネ・ネストリンガー／作 偕成社



ヨッシーは、こわがりやで、いつも妹にばかにされています。そこで、妹をこわがらせるためにおばけの人形を作ることにしました。でも、うまく作れず、いらいらして「バーベロンベロンカ！」と大声で言ったとたん、人形がうごきだしたのです。

#### 「スーパーキッズ 最低で最高のボクたち」 ★★★

佐藤 まどか／作 講談社



歌とピアノが天才的にうまい良は、地中海の島に新しくできた学校に入学しました。そこにはプロなみの絵をかくギガ、走るのが速いピッチなどスーパーキッズが次々とやってきました。ところが、良たちはゆうかいされてしまいます。

# あたらしくはいった本

## えほん



### 「ジャガイモアイスクリーム？」

市川 里美／作 BL出版

アンデスの山では、ごはんのときも、おやつのときも村でとれるたったひとつの食べ物、ジャガイモを食べます。でも、ルーチョは、むかし、いちどだけ食べたアイスクリームが食べたくてたまりません。そのねがいをかなえたのは、アルパカのお母さんでした。

## ものがたり

### 「ずっとまっぴていると」 ★ 大久保 雨咲／作 そうえん社

あかねは、ミナちゃんとまちあわせをしています。なかなかこないで、「おそいなあ」とつぶやくと、「ゆるりとまちましよう」という声こえが聞こえました。足元を見ると、1ぴきのカエルがいます。3日間もここで、なにかをまっぴているというのです。



### 「金魚のひなこさん」 ★ ただの ゆみこ／作 文研出版

ルイがかっている金魚の名前はひなこさん。ある日、かぞくやともだちのことで元気がなかったルイのまえに、赤いふくをきた少年があらわれました。そして、ぼーっとひかる不思議なうろこふしぎをくれたのです。

### 「消えたミステリー作家の謎」 ★★ ロン・ロイ／作 フレーベル館

ディンクの大すきなミステリー作家が、町の本屋のサイン会に来ることになりました。どきどきしながら出かけますが、時間になっても作家はあらわれません。ゆうかいされたのでは？と思ったディンクは、友だちとさがし始めました。



## ものがたり

「ぼくらのムササビ大作戦」 ★★ 深山 さくら／作 国土社



友樹は、鳥でもないのに五十メートルもとぶというムササビに夢中です。ところが、巣がある大イチョウの木を、切る計画があるらしいのです。大切な大イチョウを守ろうと、友樹は友だちと「ムササビたすけ隊」を作ることになりました。

「パンプキン！ 模擬原爆の夏」 ★★★

令丈 ヒロ子／作 講談社

1945年、ヒロシマとナガサキにおそろしい原子爆弾が落とされました。ところがそれ以前にも、アメリカ軍は、「パンプキン」とよばれる、爆弾をたくさん落としていたのです。そのことを知ったヒロカとたくみは、その事実について調べ始めます。



## ちしきの本

「ヒット商品研究所へようこそ！」 こうやま のりお／作 講談社



おもしろい話いっぱい「青い鳥文庫」を読んだことがありますか？ 人気のひみつは、どこにあるのでしょうか。他に、日本で、今1番売れているアイス「ガリガリ君」や、早く走れるくつ「瞬足」など、ヒット商品の舞台裏にせまります。

「ビジュアル忍者図鑑① 忍者の仕事」 黒井 宏光／監修

ベースボール・マガジン社

忍者は、お話の世界でよく登場しますが、空想上のヒーローではありません。かつて、日本でほんとうに活躍した人たちなのです。この本では、忍者の仕事ぶり、暮らし、修行についてわかりやすく紹介しています。



# こんげつのとくしゅう 音楽の本

歌をうたったり、<sup>がっき</sup>楽器をえんそうしたりすることは、好きですか？<sup>げいじゆつ</sup>芸術の秋に合わせ、音楽の本を<sup>しょうかい</sup>紹介します。

「おんがくねずみジェラルディン」 (えほん) レオ＝レオニ／作 好学社  
ジェラルディンが、見つけた大きなチーズ。かじっていくとフルーツをふいたねずみがあらわれました。

「<sup>おんがくしつ</sup>音楽室の<sup>にちようび</sup>日曜日」 ★ 村上 しいこ／作 講談社



子どもたちの<sup>がっしょう</sup>合唱をきいた楽器たちが、自分たちも歌ってみたくになります。

「天才コオロギ ニューヨークへ」 ★★★ ジョージ・セルデン／作 あすなる書房  
コオロギのチェスターは、人間の音楽をまねて<sup>な</sup>鳴くことができます。

「ピアノはともだち」 (ちしきの本) こうやま のりお／作 講談社  
<sup>しかくしょうがい</sup>視覚障害をもちながらも、<sup>こくさい</sup>国際ピアノコンクールで<sup>ゆうしょう</sup>優勝した<sup>つじいのぶゆき</sup>辻井伸行さん。  
どのような子ども時代を送ったのでしょうか。

## シリーズしょうかい



「<sup>まじよ</sup>魔女の本棚」シリーズ 1～14 (物語) ★★★  
ルース・チュウ／作 フレーベル館

<sup>こうきしん</sup>好奇心おうせいな子どもたちとユニークな魔女が登場する話です。魔女が身近に感じられ、どの巻から読んでも楽しめます。

### 「<sup>まじよ</sup>魔女と<sup>ゆびわ</sup>ふしぎな指輪」

細い指にも、太い指にもするりはまる指輪。兄弟がその指輪を手に入れてから、<sup>ふしぎ</sup>不思議なことがおこり始めます。

### 「さかさま魔女」

へんてこりんな<sup>まほう</sup>魔法をかけられ、さかさまになければいられなくなった魔女。どうやって元にもどるのでしょうか？

### 「<sup>たからもの</sup>魔女の宝物」

ケイティのたんすの中に<sup>ながつ</sup>長靴や<sup>てぶくろ</sup>手袋が入っていました。実は、ぜんぶ魔女の宝物だったのです。

< 編集・発行 >

富山市立図書館

富山市丸の内1丁目4-50

電話 076-432-7273